

脳卒中を予防しましょう

岩手県は、全国の中で脳卒中死亡が多い県です。

男性はワースト（脳卒中死亡が多い方から）3位、女性はワースト1位！（H29年のデータ）

軽米町は岩手県の中でも脳卒中死亡が多い町です。国を100とした時、軽米町は2倍以上の死亡率（233.8）となっています。

☆ 脳卒中（=あたる）とは・・・

- 脳梗塞・・・脳の血管が詰まる
- 脳出血（脳溢血）・・・脳の血管が破れる
- クモ膜下出血・・・脳表面の血管が破れる

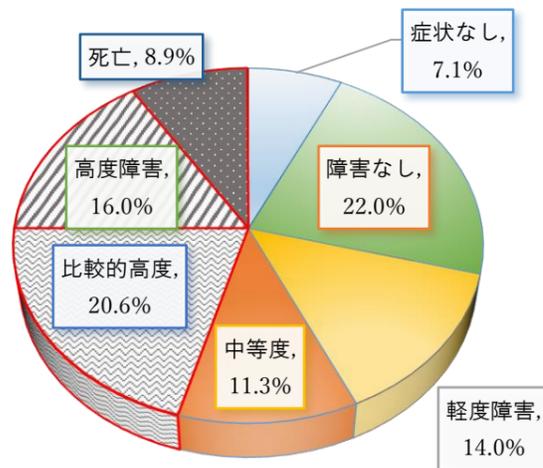
（多いのは脳動脈瘤破裂によるもの）

軽米町で多いのは、1.脳梗塞 2.脳出血 3.クモ膜下出血。

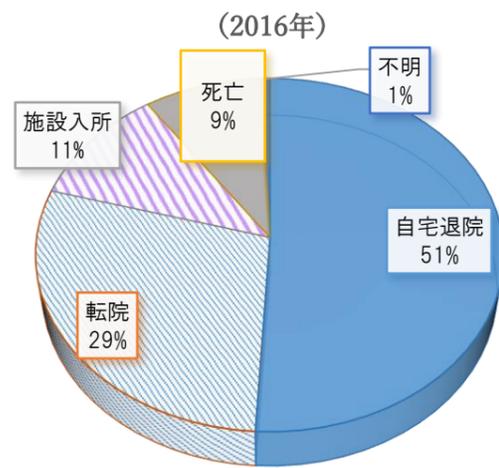
脳梗塞は男性に多く、脳出血は女性に多い傾向があります

《出典：脳梗塞発症後の状況 2016年岩手県地域脳卒中登録事業報告書より》

脳梗塞 臨床診断別転帰の状況（2016年）



脳梗塞臨床診断別社会的転帰の状況（2016年）



『脳梗塞になった方の約半数（45.5%）が高度障害または死亡している』、『脳梗塞になった方の約半数が自宅に退院、3割が転院、1割は施設入所』という事がデータからわかります。

☆ 脳梗塞にも原因別に種類があります。

ラクナ脳梗塞（脳の細い血管が詰まる）は男女とも40歳代～60歳代に多いようです。

アテローム血栓性（脳の太い血管に血栓ができて詰まる）は70歳代男性・80歳代の男

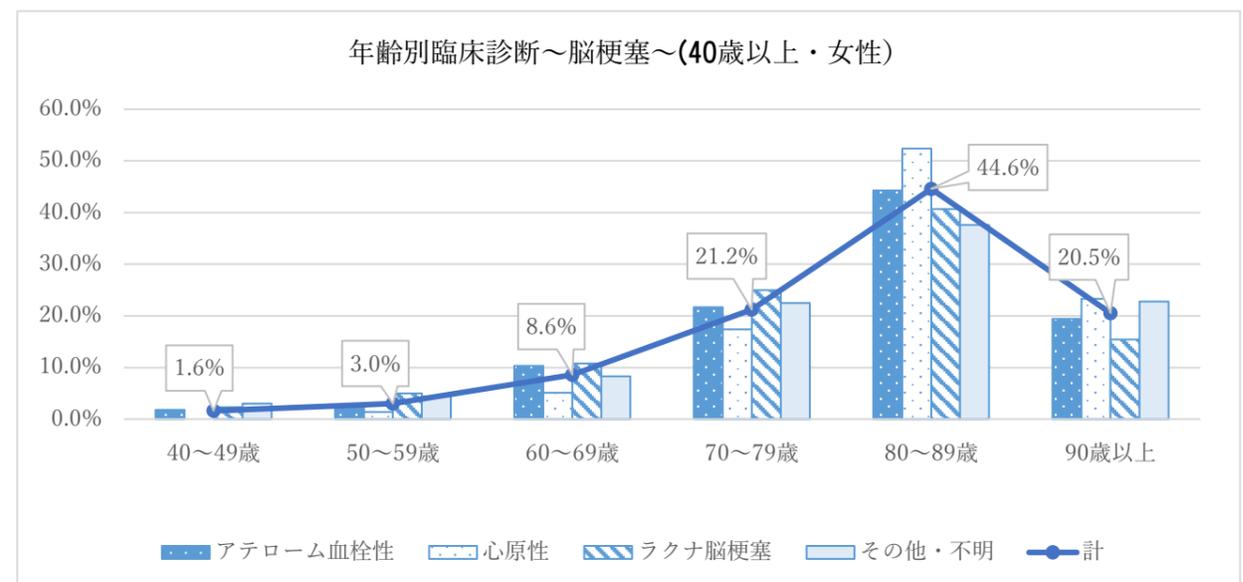
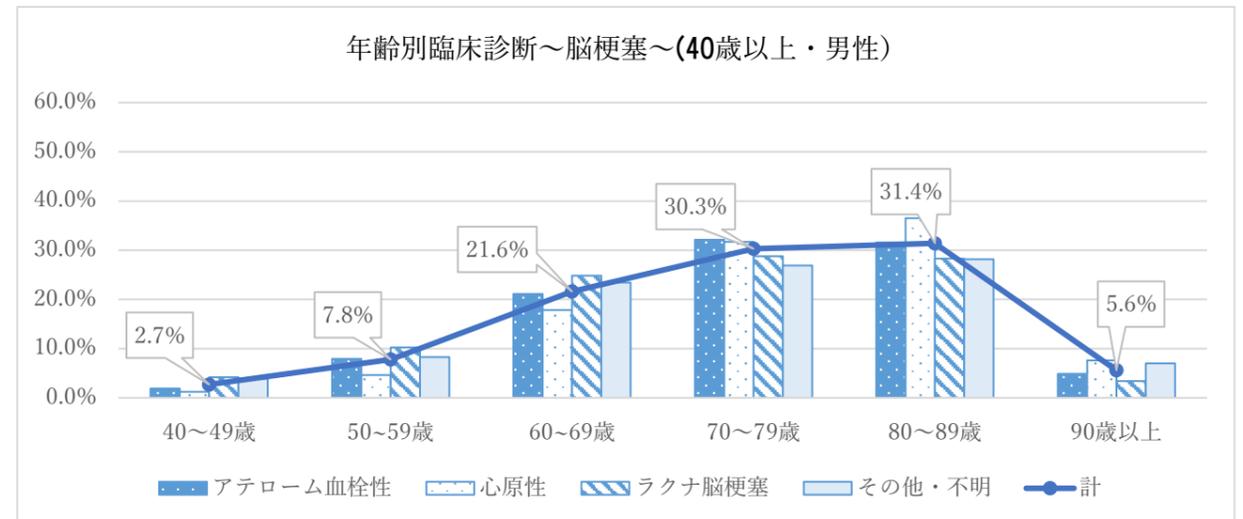
女に多く、男女とも年齢が上がるにつれ心原性（不整脈等で血栓ができ、その血栓が脳に飛んで脳の太い血管が詰まる）脳梗塞の割合が多くなっています。

脳の太い血管が詰まると、脳の損傷の程度も大きくなります。

脳梗塞も脳出血も、発症は40歳代～70歳代までは男性の方が多く、80歳代

以降は女性の方が多くなっています。

◆岩手県の脳梗塞の状況…



《年齢階級別性別臨床診断 2016年岩手県地域脳卒中登録事業報告書よりグラフ化》

☆ 脳卒中になると…

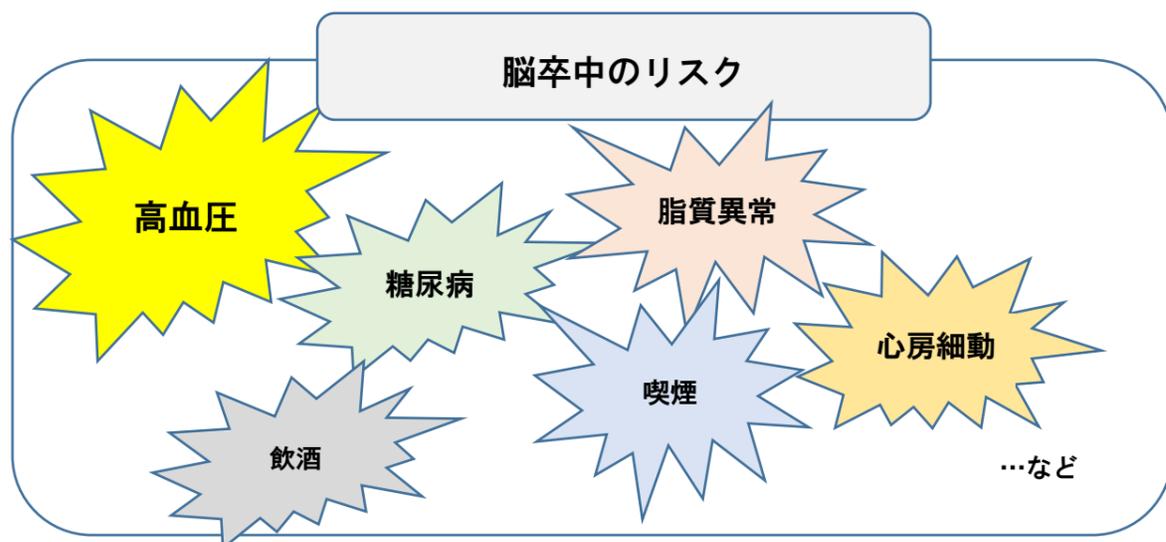
脳の血管が詰まると血流の届かない部分が壊死してしまい、体の麻痺が起こり、最悪の場合には死に至ることもあります。また、脳出血が起こると頭蓋骨の中にたまった血液が脳を圧迫し脳細胞を壊してしまいます。脳梗塞の後遺症には、手足の麻痺のほか、言葉が出にくい、食べもの等の飲み込みが悪くなる、認知症など様々な症状があり、寝たきりの原因の第1位となっています。後遺症の症状の程度は脳が損傷した場所や程度、リハビリの効果等により変化があり、人によって様々です。

☆ 脳卒中の原因は？

脳出血の大半と脳梗塞は、主に動脈硬化によって起こります。

動脈硬化は、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病によって、長い間に少しずつ血管が傷つき、固くもろくなったり、血栓ができやすくなったりします。動脈硬化になっていても、それ自体は自覚症状がほとんどありませんので、自分では気が付きにくいものです。

また、不整脈（特に心房細動）等の心臓病をわずらっていると、心臓内で血が固まりやすく、血栓ができやすいとされています。



☆ 脳梗塞の診断と治療は時間勝負!!

脳卒中の症状はある日突然起こることが多いですが、脳梗塞の場合、前触れとして『一過性脳虚血発作 (TIA)』が起こる人が多いことがわかっています。

一過性脳虚血発作は脳梗塞と同じような症状が短時間（多くは数分～数十分）起こり、一旦は回復しますが、回復したからと病院に行かないでそのままにしていると、48時間以内に脳梗塞を起こす人が多いという報告もあり、また、3カ月以内に2割ほどの人が脳梗塞を発症するということもわかっています。

疑われる症状

- ☑片側の手足・顔のまひ
- ☑ろれつが回らない、言葉が出ない
- ☑片側の手足・顔のしびれや感じ方がにぶくなる
- ☑片方の目が見えにくい、片側にあるものがみえない

こういった症状が現れた場合は、おさまったからと放置せずに病院を受診しましょう。

また、何の前触れもなく脳梗塞の症状が現れた場合は、『一刻も早く初期治療を受けること』が大切です。

ご自分に症状が現れた場合はすぐにまわりの人に助けを求め、できるだけ横になり救急車で病院に行きましょう。家族の方に症状が現れた場合は、まず119番に電話して救急車を呼び、吐いたもので窒息しないよう横向きに寝かせ、救急隊を待ちます。軽症と思われる場合も、途中で容体が変わることがあるので救急車を呼びましょう。

☆ 脳梗塞の初期症状 FAST



Face(顔のまひ) **A**rm(うでのまひ) **S**peech(ことばが出ない) **T**ime(発症時間)

に注意!! 顔・うで・ことばの症状一つでも出ていた場合は脳卒中の可能性が高いのですぐに救急車(119番)を呼びましょう!

[この内容は、国立循環器病研修センターホームページ 循環器病情報サービスの内容を一部引用しています。]